

消費者の環境意識の向上に ともなって北米における アルミニウム缶需要が増加



環境への意識の高まりから
アルミニウム缶に高い価値が見出され
市場は年率5%で拡大

現在、北米のアルミニウム缶市場は非常に好調で、今後もアルミニウム飲料缶の需要は旺盛さを維持し、2030年まで年率5%で成長すると予測されています。これにより、飲料缶の売上本数は2030年までに1520億本に到達すると推計されています。

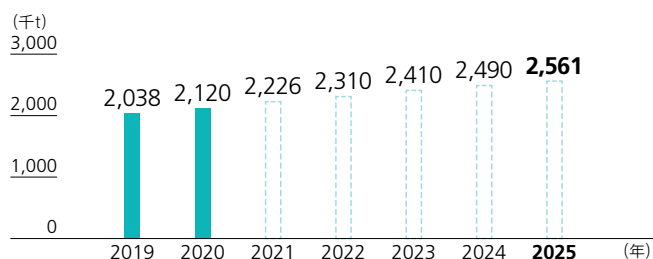
こうした需要の伸びの背景には、他の素材の容器よりもアルミニウム缶を好む消費者嗜好の拡大があります。北米では、環境保護に熱心な消費者が年々、持続可能性の観点から商品を

選ぶようになってきています。このような消費者は、アルミニウムが軽量なうえにリサイクル性にも優れた低環境負荷素材であることを理解しています。また、現代の若者は環境に関する知識が豊富で、アルミニウム缶に入った飲料を好む傾向にあります。

かつては瓶入り飲料が高級品とされていた時代もありましたが、現代においてはアルミニウム缶飲料がプレミアム商品とされており、他の容器よりも高い価値を見出している消費者が増加しているのです。

そして、このような消費者意識の変化を踏まえ、新たに発売される飲料製品にアルミニウム缶を採用する傾向がますます拡大しており、アルコール飲料から栄養ドリンクやフレーバーウォーターに至るまで、市場ではアルミニウム缶の安定した増加傾向が明確化しています。

北米におけるアルミニウム缶需要の予測



出典：CRU Aluminium Rolled Products Market Outlook 2020



執行役員
Tri-Arrows Aluminum Inc.
President and CEO
Henry Gordinier

リサイクル材の使用により製造時におけるCO₂排出量や水消費量を大幅に削減

持続可能な製品の需要拡大にともない、我々TAA※1の顧客はサステナビリティ施策に取り組んでいるとともに、より環境に優しいソリューションを追究しています。こうしたニーズに対して、TAAはリサイクル材で製造したアルミニウム缶材を供給。実際に2021年に当社が扱う缶材におけるリサイクルアルミニウム含有率は平均74.5%となっています。

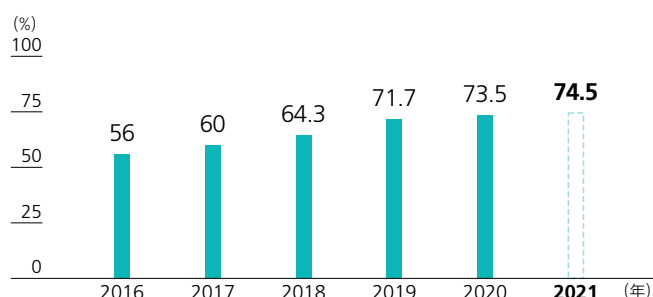
リサイクルアルミニウムの採用は、当社のサステナビリティ経営の重要要素であり、その実現に向けた取り組みを順調に進めてきました。その結果、TAAが使用するリサイクルアルミニウムの使用量は、2021年末までに2017年比で88%の増加となるほどです。また、製造過程で使用される水消費量も、同期間で約45%減少する見通しです。

さらに、生産量1トンあたりの炭素排出量は、生産能力が30%

拡大したにもかかわらず、横ばいで推移しています。加えて、リサイクル率を高めたことで、エネルギー消費量や廃棄物量の削減にもつながっています。これらすべての取り組みによって、当社の業務における効率性向上および環境負荷低減を実現しています。

※1 Tri-Arrows Aluminum Inc

TAAにおけるスクラップ材の平均使用率



グループの3か国にまたがる供給ネットワークを活かし、安定した収益維持と事業成長を確保

缶材市場の成長が続く北米において、TAAは優先サプライヤーの地位を確立しています。すでに2025年までの予定生産量すべてが契約締結済みであり、これまでの設備投資に見合う売上げの確保および安定した利益の創出が実現する見通しです。

その一方で、供給不足に直面する北米市場の変化にも対応していく必要があります。現在、製缶メーカー各社は増加する需要への対応として缶材を輸入しており、同時に新たなサプライヤーの市場参入も進んでいます。そして、米国内の製缶メーカー各社は、生産拡大に向けた投資を行い、2022年末までに生産能力は250億本分拡大すると言われています。

このような状況から、TAAには顧客企業からの増産依頼が

多く寄せられており、現在、中期的な視点での生産能力拡大を検討しています。また、UACJおよびUATH※2との密接な連携を継続することで、注文に見合う量の供給に取り組んでいく方針です。なお、グループの3か国にまたがる供給ネットワークは、世界各地の需要に柔軟かつ迅速な対応を可能とするもので、現在は北米への支援に主眼を置いています。

北米のアルミニウム缶市場では、非常に明るい見通しが立っていることに加え、持続可能性の観点からも新たな成長機会が複数存在しています。我々TAAを含むUACJグループは、こうした機会を確実に捉え、より豊かな未来を目指して邁進していきます。

※2 UACJ (Thailand) Co., Ltd.

世界3極供給体制を活かしたグローバルでの缶材拡販を目指す



EV化が先行する北米を中心に 旺盛なアルミニウム 自動車部品需要を獲得



顧客ニーズに応え続け、 自動車部品事業を拡大

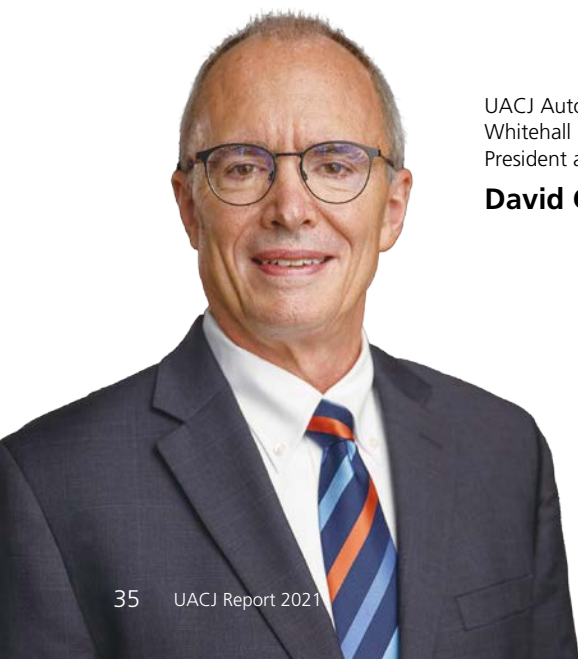
自動車のアルミニウム化は、車体の軽量化による燃費向上をもたらし、10年間の走行でCO₂排出量を2トン削減すると推計されていることから、年々アルミニウム材料を使用する動きが拡大しています。

そうしたなかで、UWH※は自動車のアルミニウム部品の大手サプライヤーとして、顧客の要求に応え続けてきました。UWHは、1974年から、サンルーフ型材の生産を開始。顧客が求める精度が非常に高く、どこでも実現できていなかったため、自社で押出加工を始めました。その後、2001年に初の押出プレスを導入し、この市場での成功を機に他の自動車部品分野にも進出。そこでも顧客ニーズに応え続けてきたことで、

顧客の信頼を獲得し、現在ではルーフレール、コンバーティブル・トップ、油圧シリンダー、ボディに加え、内装用部品の製造も手がけるほどに。そして、事業成長にともなってアメリカ南部に拠点を拡大し、中央メキシコにも進出するほどになりました。

このように、UWHは長年にわたり自動車業界の要求に応え続けてきたなかで加工ノウハウを蓄積するとともに、型材と曲げ加工、溶接、組立などの精度を磨き上げ、高品質な製品を供給。北米市場で顧客の信頼を獲得し、多くの大手自動車メーカーのTier1サプライヤーとしての地位を固めました。また、2016年4月にUACJグループに加わったことで、顧客ニーズに応える事業環境を整備でき、5年間で15%の成長を実現しています。

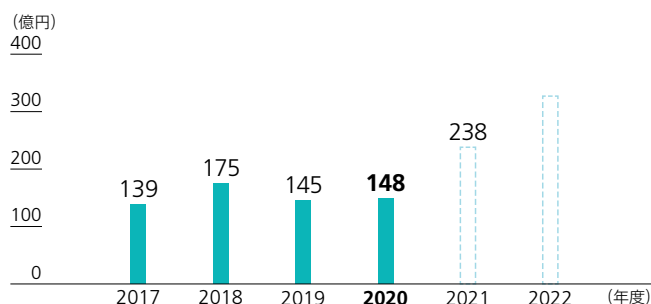
※ UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.



UACJ Automotive
Whitehall Industries, Inc.
President and CEO

David Cooper

UWHの売上高推移



EV化を追い風にさらなる事業拡大へ

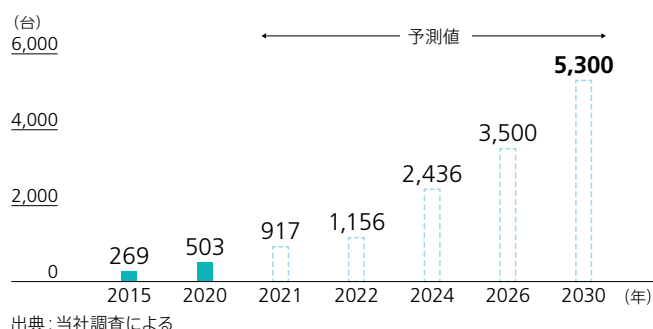
世界各国で燃費規制の強化やEV推進が活発化し、自動車メーカー各社がEV化目標を発表しています。そして、2030年までの自動車の売上予測においても、EVの市場シェアは30%まで上昇すると推計されています。こうした流れを受けて車体軽量化ニーズはますます高まり、EV市場は自動車用アルミニウム構造材が供給不足になるほど活況を呈しています。

さらに、EV化によって自動車の動力源が内燃エンジンから電気モーターへとシフトしていくなかで、押出加工や板部品の需要がさらに高まると予想されるため、UWHにとって世界的なEV化の潮流は事業拡大の絶好機であると認識しています。

こうした事業機会を捉えるべく、顧客であるEV大手の工場に近いアリゾナ州フラッグスタッフに2021年に工場を新設す

るとともにミシガン州の既存工場へ新規で押出機を設置する計画です。生産能力を増強することで、2022年度までに売上高は3億ドルに達する見込みです。

電動車両北米生産台数予測



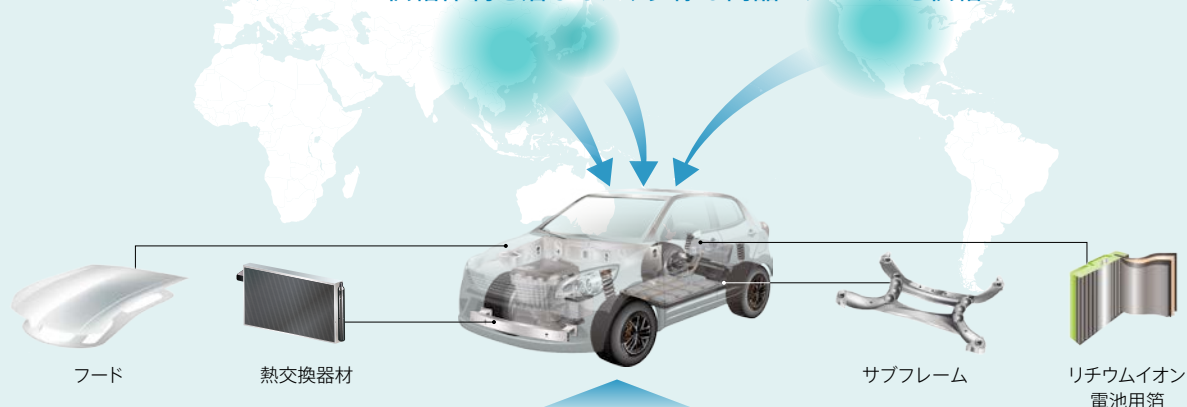
CLOSE UP

グローバル供給体制と事業間連携力を活かして早期収益拡大へ

UACJグループでは、自動車部品のグローバル供給と安定量産体制の強化を進めています。日本国内においては、福井製造所でCALPラインを立ち上げてボディ材の供給を始めるとともに自動車構造材も供給し、北米では構造材を中心に供給。中国ではEV市場の勃興を機にリチ

ウムイオン電池用箔の供給に注力しています。加えて、UACJグループが持つ多彩な事業間の連携をさらに強化することで、自動車バンパーやEV用バッテリーモジュールなどの高付加価値な商品・サービスの提供を推進し、早期に収益を拡大させていく計画です。

グローバル供給体制を活かした、多様な商品・サービスを供給



事業間連携強化により、商品・サービスを拡大

